明治廿六年八月三十日印刷
明治廿六年九月一日發行

婦人衛生雜誌

第四拾六號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌

第四拾六號

目次

講演

◉乳兒の育て方　醫學士　伊東祐彥君

寄書

◉婦人須知（前號の續）○健康なる產婦の心得○嬰兒の接乳○乳房に於ける注意　醫學士　賀古鶴所君

◉浴場行日誌（前號の續）　醫學博士　佐々木政吉君

衛生叢談

◉斷食試驗の結了
◉喫氷に關する獨逸政府の諭達
◉溺死者救濟新法
◉安足袋の危險
◉北里博士の肺患識別劑
◉喫煙の新法
◉人の死する原因
◉精神病と不毛の關係
◉婦人の髮
◉虎列刺病の植付
◉蛋白と淡白
◉產婆試驗
◉義眼村
◉雜報一束
◉東京市內小兒科醫の栞
◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌

第四拾五號

目次

講演

◉衣服の話　ドクトル　飯盛挺造君

◉小兒の避暑に就て　醫學博士　弘田長君

寄書

◉平易に產事を了せしむる法　醫學士　賀古鶴所君
○產用器械○產婆の務○產褥熱の症候原因○產婦の手指及器械○產婦の用意○海綿○鑛製の器物○產婆手指の洗浄○寢衣敷布臥褥の更換○產婆の注意○產婦の傳染病

衛生叢談

◉脚氣病◉臥寝法◉健康規律◉日本人の浴湯◉食物と出產との關係◉煙草の効能◉爪の成長◉水醫法◉斷食の試驗◉蜂を以て傴麻窒斯を療す◉兵營の衛生◉歐洲自殺多し◉房楊枝の嘸下◉本年の暑さと虎列刺◉天然痘と虎列刺と本所病院◉熱性脚氣流行◉各縣赤痢◉大日本婦人衛生會例會◉大日本私立衛生會例會◉赤十字社の社員の增減

◉廣告數件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第四拾六號

（明治二十六年九月一日發行）

講演

乳兒の育て方（六月十日富士見倶樂部に於て婦人衛生會例會に於て）

醫學士　伊東祐彦君演說

私の問題は、余り珍らしい問題でもなく、極く有りふれたる事柄で御座いますが、私は自分の專門の事より外には何も存じませぬから、相替らず乳兒の育て方に就て、御咄し致します。此題の意味を鳥渡申上げて置きますが、乳兒と申しまするのは、乳ばかりで育つ間を申すので、大抵生れてから凡そ一年位ゐの間を申します。粥或は其他の食物を少しづゝでも食べる様になりますれば、乳は飲みましても、ソレは最早乳兒とは云はない意味でございます、亦唯育て方と云ふては、余り漠とした事の様にも思はれますが、其趣意は乳を飲ませて、子供を營養する方法を云ふのでございます。小兒が幼少き時には、いろ／＼の病氣が御座いまして、百日咳、感冒、痲疹、疱瘡等の種々なる病氣がございますが、サウ云ふ病氣に關係した事は少しも申さぬつもりで有ります。唯乳を飲ませる方法及び注意を申す積りでございます。たゞ乳を飲ませる方法と云ふと、甚だ簡單で至極容易い事の樣でも御座いますが、之を實際に行ふは中々六ヶ敷い事でございます。小兒の病氣は、消化器病が一番多い、昨年大學の小兒科に於て、一年間の病氣の數を算して見ました所が、數は確かに覺えて居りませぬが、小兒が腸胃の病氣に罹る事は、他の總ての病氣に比して、五六倍も余計に罹ッて居ります。殊に是れから追々暑い時候になッて參りますると、腸胃の病氣が非常に多くなる。

小兒の育て方

其腸胃の病氣は、ドウして起るかと云ふに、皆營養法即ち乳を與へる方法を過ッて居るのでございます。原因が無くて腸胃の病氣の起ると云ふ事は、決して御座いませぬ。毎も乳を與へる方法の行屆かぬ爲めに起るので有ります。それ故に乳を與へる時に、注意が充分に屆いて居りますれば、彼の恐るべき腸胃加答兒を起す氣遣は決して無いと云ふ事が出來ます。斯樣に腸胃加答兒を起す原因は、乳を與へる時の不注意から起るものであります、ソレ程に大關係を有て居ることでございますから、從て其注意も大へんに六ケ敷いものでございます。私は未だ經驗が積みませぬから、自分の經驗に就て、充分の事を申上げることは出來ませぬが、大學の小兒科に於て、私共の師匠の弘田長氏の實驗に依りました說と、私が是まで實地に就て經驗した事だけを申上けます。

小兒が生れますると、產婆が直に湯を遣はせます、サウしますると、小兒は暫くの間眠ッて仕舞ひまして、三四時間を經て目を覺まし、始めて乳を飲みます。然るに後來日本の習慣では、乳を飲ませる前に「マクリ」と云ふものを飲ませます。「マクリ」と云ふは、色々の藥が這入ッて居りますが、主として下劑の目的でございます、何故に之に「マクリ」と云ふ名を附けたかと云ふに、或る古い書物を見ました所が「マクリ」は「マクリ出す」とか、「マクリ立てる」とか云ふて、追ひ出すといふ意味ださうでございます。何を追ひ出すのかと云ふに、胎毒を追ひ出すと云ふ考へであるさうでございます、小兒が母の胎內に在りまする時分に、いろ〳〵の物を飲み込んで腹の中一杯に穢いものが這入て居ります、ソレをも同時に下して仕舞うと云ふ考へで、「マクリ」と云ふものを飲ませるのだそうで御座いますが、併し是れは今よ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り考へて見れば甚だ笑ふべき事で、道理に當ては居りませぬ。なぜ古の醫師が胎毒と云ふものを出さなければならないと云ふ考へを起したかといふに、小兒の病氣と云ふものは、胎毒と疳の二ッが原と考へた故でございます。其風習は今でも遺ッて居りまして、病院に診察を乞ひに來て、其病ひを問ひまするに、「これは胎毒で御座いませうか、疳の虫で御座いませうか」なぞゝ云ッて聞く人が大變にあります。頭に發疹の出來ましたのをも、胎毒の故だと云ふ事を申します。ソレから内臟の病氣にしても、乳を吐くとか、下だすとか、咳が出るとか痙攣るとか、外から見えない病氣は、疳の虫であると申して居ります。此疳と云ふものは矢張り生れながら持て居るもので、是れも生れると直ぐに下だして仕舞はなければならぬと云ふ考へで「マクリ」と云ふものを飮ませます。古の人が此疳と云ふものは、胎内から持て來るものだと云ふ考を持ていることが分るかと云ふに或書物に斯う云ふ事が書いてある。小兒の大便は始めは黑い色をして居る、ソレを「カニバヾ」或は「カニマク」と云ふ「バヾ」といふのは、大便のこと、「コク」は黑いと云ふ事であります、「カニ」と云ふはドウ云ふ事かといふに、「カニ」は疳と云ふことださうで、其譯は「ん」の字と「に」の字とは音は違ッて居ッても、「ん」は「人」と云ふ字の省したもの、「に」は「仁」の字を省せしものと云ふ人と仁とは元おなじものであるから所謂「カニバヾ」と云ふも「カンバヾ」と云ふも同じ事で、大便を下して仕舞へば疳を防ぐ事が出來ると云ふ考へで、一方には胎毒を來だし、一方には疳を防ぐと云ふ考で「マクリ」と云ふ下劑を用ゆるのださうでございますが、併し此考へは間違ッて居るので御座います。胎毒抔といふものは誰れにでも有るものではない、生れた時に胎毒下だしといつて

「マクリ」を飲ませましたとて、矢張り胎毒の有るものは、成長の後と雖も煩ふて居ります。決して「マクリ」を以て「カニバヾ」を下だしたとて、胎毒や疳を豫防する事は出來ない。此「マクリ」即ち下劑を用ゐることは、唯今申す通り少しも必要が無い當に必要のなきばかりでなく、寧ろ害が御座います。ソレを委しく言ひますると、何故胎毒下し即ち「マクリ」を飲ませる必要は無いかと云ふに「カニバヾ」と云ふものはよし小兒の腹中に止まつて居ッても、左程に害になるものでは御座いませぬ。これは普通の大便と認めても宜しい、決して其中に胎毒を含んで居り、或は疳の虫の這入て居ることは無いのでございます、ソレ故に強て下だすには及びませぬ。たとへ下劑を用ゐませんでも、自然と下だるもので御座います。其上に母親の乳は始めの一週間位ゐは、乳の性が違ッて居ります、其色からして違ッて居ります。其中には「コルストルーム」と云ふ物が這入ッて居ッて、ソレが下劑の樣な作用を爲すものでございます。態々人が骨を折て藥杯を用ゐませんでも、天然自然に始めの一週間に出る乳は、下劑の効能の有るものが含まれて居るので有りますから、殊更に「マクリ」を用る必要は、毫も無いので御座います。必要の無きのみならず、ドウ云ふ害が有るかと云ふに、「マクリ」を飲ませました後には、必ず便通が遠くなつて、難義を致します。折々病院にも其例の者が參りますが、ソレを能く詮議して見ると、生れて三日間乳は少しも飲ませず、「マクリ」ばかり飲ませて置いたと云ふのがございます、毎でも下だす藥を用ゐた後には多くは便秘するものでございます。且つ「マクリ」は苦味を以て居る、苦い物は生れたての小兒に飲ませては腸胃を痛めます、甚だしきは吐いたりなどする事がございます夫れ故に「マクリ」は害

ありて益なきものであります。斯の如き舊弊な事は教育ある方々はなさりますまいが序で故申上げて置きます。

若し又所謂「カニババ」と云ふ黑い大便が出ない事がございまして、ソレで乳を飲んでも吐いて仕舞ふ、サウ云ふ時には、ドウしたら宜いかと云ふに、其場合には灌腸をするが宜しい。「マクリ」或は賣藥の下だし藥等を用ゐては往けませぬ、ソレを用ゐると必ず後で難儀を致します。灌腸法は專門に涉りますから、玆では申上げませぬ、專門家に就て手當をして貰ふが一番宜しう御座います。決して素人考へを以て、ありふれたる下だし藥などを無暗に用ゐては往けない。是れで先づ大便の御話しは濟みました。

次に乳を飲ませる事に就て申上げます。御產を致しまして直ぐには乳は澤山に出ませぬ。乳が澤山出ませぬので、大變に心配する人が御座います。中には乳の粉或は砂糖湯などを飲ませますが、ソレは却て危險なる事で、大變なあやまりで御座います。乳の粉或は砂糖水は小兒の腸胃では能く消化する事は出來ませぬ、只素通りをするのみで、………啻に素通りをするばかりなれば宜しいが、ソレが爲め非常に腸胃を害します。故に若し乳が出ませぬならば、縱令二十四時間や四十八時間位ゐ乳を飲ませずに置きましたとて、ソレがために死亡するやうな事は御座いませぬ。極く虛弱なる小兒で生れても何となく勞れて居るやうなものは格別でございますが、通常の小兒なれば、一二日乳を飲ませないで居りましたとて害になる樣な事は御座いませぬ。又母の乳と云ふものは初めから澤山出るものではございませぬ、日を經るに從て漸々余計出て來るのでございます、始め吸ッた時よりは二度目の時の方が多く出て

小兒の育て方

三度目には又余計にあるのですから、頻りに小兒に吸はせるのが一番宜いので御座います。若し小兒の吸ふ力が割合に弱くって、なか〳〵出ない様でございましたならば、ソレよりも年を取った子供に吸はせるが宜い。サウすれば吸ふ力が強うございますから、早く出る様になる。又若しも、吸はせる様な子供の御座いませぬときは、乳を吸ひ出す器械が御座います、其器械で吸へば早く多量の乳が出る様になります。然るに乳の少ないのに狼狽て丶乳母を雇たり又は牛乳なぞを飲ませては往けない、余り早く諦めて仕舞うと、眞個に乳が出なくなります。併し眞に母親さんの乳の出ない時は乳母を雇はなければならぬ、母親さんの乳が出ないとすぐに牛乳を用る人も御座いますが、牛乳は先づ第二と致しまして、乳母の良いのを擇び、乳母の乳で育てるやうにするが宜しい。前に申しました乳の粉、砂糖水、又此頃諸所に賣り捌ひて居ります養兒粉、ヘルス等種々乳の代用と稱するものがありまして、乳母代りになるとか何とか云つて居りますが、ソレ等は決して飲ませては往けませぬサウ云ふものを用ゐますと、的面に必ず腸胃病を起します。母親さんの乳が充分に出ましても、乳房の形が小さくて吸ふ事の出來ない事がございます、或は乳房が大き過ぎて小兒の口中に這入らないことがあります。その時に自分の乳が役に立たぬものと諦めて、牛乳にして仕舞う人抔も往々有りますが、甚だ惜しい事でございます、サウ云ふときには其乳を絞ッて飲ませるとか、或は乳を飲ませる器械にうつして飲ませても宜しう御座います。乳を絞ッて飲ませるといふことは是れまで世間の人が余り知らぬやうでございますが、一旦絞ッてソレを器械に入れて飲ませるのが一番宜しい、牛乳とても矢張り一旦絞ッてソレを器械に入れて飲ませるの

でございますから、同じ事でございます。一旦絞ッて飲ませるのは大變に世話の樣でございますが、或る塲合には乳母を用ゐずに是非とも母親さんの乳を絞ッて飲ませなければならぬ事が御座います、又或る塲合にはソレ程の手數をかけないでも、乳母の乳を飲ませても宜しい事がございます。サウ云ふ時には醫師に其意見を聽き、是非とも自分の乳を絞ッて飲ませなければ育たないか、或は左樣なる事を仕ないでも、乳母の乳で育てゝ宜しからうと云ふ事を專門家に定めて貰うが宜しい、以上は母親さんの乳が出ないか、又は出樣が少ない時にはドウしたら宜いかと云ふ事を申上げましたのであります。

是れよりは母親さんの乳が充分に有ッて飲ませることが出來ましても飲ませられない塲合が御座いますからソレを申上げます。如何なる塲合を母親さんの乳が充分にありましても、其小兒に飲ませる事が出來ないかと申しますると、母親の身體に異狀の有る時、言ひ換へれば、何か變ッた事のある時、ソレを一々上げて申しますれば、第一に母親さんの身體の弱い時、第二に病氣の時、第三に服藥して居る時、第四に懷妊の時、第五に經行の始まりし時、第五に心配のある時、即ち精神の穩かならざるとき、斯う云ふ塲合には其乳を飲ませては成りませぬ。ドウ云ふ譯であるかと申しますれば、母親のからだの弱い時には、其乳も必ず營養分が少くなつて居ります。且つ御母親のからだの方より申しても、ソレ丈け滋養分を取られますから、幾分か衰弱が增します。ソレから妊娠致しました時には小兒が其乳を飲むと腸胃加答兒を起す事がある、又胎內の小兒を養ふにも乳の方に滋養分を取られては胎內の子の爲めにも惡う御座います、故に妊娠の時には乳を飲ませぬ樣にするがよろしい。又經行の有る時は、乳の性質が多少

變ッて居る、其乳を飲んだ爲めに、小兒が乳を吐き及ひ下痢を起したと云ふ事が屢々でございます。母親さんが何か心配のある時に、其乳を飲んだ小兒は大抵は腸胃の病氣を起します。甚だしき例は、母親さんが何か非常に物に驚いた其時に乳を飲んで居りました小兒が急に痙攣と云ふ話しが御座います。ソレから母親さんが服藥して居ります時に藥の中に含んで居る品物に因ッては其成分が乳から出でます。その藥が小兒の腸胃を害することが幾らも有ります、ソレ故藥を用ゐて居りまする間は、其乳を飲ませて差支無いか如何と云ふ事を醫師に聽いて見るが宜しう御座います。殊に大切なる事は、母親さんが病氣に罹ッた時に、其乳を小兒に飲ませる事でございますが、病氣の中でも一番恐ろしいのは脚氣で御座います。母親さんが脚氣に罹ッて居りまして、其乳を小兒に遣りますると、非常に重い處の消化器病に罹ッて、少し治療が手遲れになりますると、其子供は死亡して仕舞ひます。是れまで毎年夏になりますると大學の小兒科に脚氣の乳を飲で重き消化器病に罹り入院するものが澤山にございます、今年も最早四人ばかり入院致しました。然るに母親さんが脚氣と云ふ事に氣が附かないで居る事がある、ソシて其乳をば小兒に飲まして居ると、小兒は青い色の大便を致し、乳を吐いて一種特別の顏貌になり、日に増し容體が惡くなつて危篤に陷るやうな事が往々御座います。併しソレは早く心附いて其乳を飲む事を止めさへすれば、服藥しないでも、二三日で癒ります。追々夏になりますると、脚氣が多くなりますから、足などの痺れる樣な感じがありましたならバ、能く注意して早く醫師に見せるが宜い。今申上げました如き障りが無きにもせよ、其母親の乳が元來小兒に適當しない場合が大變にございますが、若し不適當の

乳であつたならば濫りに飮ませる事は成りませぬ。以上申し來りたる如き故障が一もなく乳も適當して居りますれば、始めて其乳を與へる事が出來るのであります。

又乳を與へる時には、如何なる注意を要するかと云ふ事を鳥渡申して置きます。先づ第一に小兒の口中を清潔にするのが肝要であります。口の中が不潔になつて居りますると、其不潔物を乳と共に飮み込んで、時として胃を害することがございます。小兒の口の中は始終奇麗にして置かなければならぬ。奇麗にするには、薄いやはらかな晒しの布を指先きに卷いて温い湯或は水にて靜かに拭くが宜しい。ソレを少しも構はずに穢ないまゝにして置きますると、口中に白いポツ〳〵したものが出來る、俗に鵝口瘡と云ふ、ソレが澤山に殖へると、乳を緘む事が出來なくなります。拭く時には余り強く拭かないやうにするが宜しい、若し傷でも出來ますると、ソレからできものが出來ます。又乳房をも奇麗に拭いて飮ませなければならぬ、乳房に腫物でも出來て居りましたならば、飮ませぬやうにしなければなりませぬ。乳は何時間飮ませたら宜からうかと云ふに、是れは皆様方より度々御問ひになることで御座いますが、其時間は判然定める事は出來ませぬ。なぜ定める事が出來ないかと申しまするに、小兒に依て乳の吸ひ様の強いのと、弱いのと有りまして、皆吸ふ力が違ッて居る。又乳の出方の盛なのと、弱いのと御座います、澤山張ッて居る時には余計出まするし、張て居らぬ時はなか〳〵出ませぬ。若し小兒が乳を吸ふ力が強く、乳も充分に張ッて居りますれば、極く僅かの時間飮んでも腹一杯になります。ソレに反して小兒の吸ふ力も弱く、乳の出も少ない時は從て永い間飮ませなければなりませぬ。ソレ故に今茲で一定の

小兒の育て方

時間を確と申上げる事は出來ませぬが、先づ平均した所で通例十五分乃至二十分間で宜しう御座います、乳を飲み過ずと惡いと云ふ御考へも御座いませうが、小兒の腸胃に別狀の無い時なれば、自分から嫌やにあッて離すまで吸はして置いても決して害は御座りませぬ。

乳を飲ませます時間は今申上げました通りでありますが、何時間置き位ゐに飲ませたら宜いかと云ふに、此間ひも折々起る事でありますが、ソレは大凡そ二時間乃至二時間半毎に與へるが宜しい。乳は小兒の胃の中て大抵一時間半位ゐで消化して仕舞ひます。小兒が泣きまするると、此時間には拘らず、毎でも乳を與へるのは今日までも日本の習慣にあつて居りますが、ソレは云ふまでもなくあやまりで御座います子供の泣くは必ず空腹いので泣くのでは有りませぬ小兒は言葉を發する事は出來ませぬから泣くより外に仕樣が無い、暑くても寒くても痛くても苦くても、其感情を訴へるのは唯泣くばかりで御座います。ソレに就て斯う云ふ咄しが有る。是れは現にあつた事で御座いますが、或家で小兒が非常に泣くので、醫師に見せても解らない、ドウしても原因が解らないので、大變に困て居ッた處が、後で着物が濡れたので着換へさせた所が、其着物の裏に針が刺ッて居ッたさうで御座います。之を見ても子供の泣くのは強ちに空腹を訴へるばかりでないと云ふ事が分ります小兒は乳を飲ませさへすれば飲んで居る間は默ッて居ります、故に兎角夜分抔は小兒が目を覺しまして、泣き出しまするると、母親は自分の眠いのに堪えられないで、前後の思慮にも及ばず、乳を飲ませて泣くのを止めると云ふやうな、惡い習慣がありますが、時間を定めずに無暗に乳を飲ませると、腸胃加答兒の原因となります、今申す通り、子供の泣くは

空腹を訴へるばかりでは有りませぬから、能く時間を定めて乳を與へ、何ほも泣くならば必ず他に原因が有るに相違ないからすぐに醫師に診察をして貰ふがよろしう御座います。

是れまで申しました所は、母の乳を與へる事の出來る場合に就て申したのでございますが、若し母の乳をドウしても與へる事は出來ない場合、即ち乳が出ないとか、其乳の成分が惡いとか、母親のからだに障りの有る時は、乳母の乳を與へるがよろしい。乳母を擇ぶのはなか／＼困難でございます。乳母の身體並に乳が善いか惡いかといふ事は、醫師に托して撿査して貰ふのでありますから、其方は先づ安心と思ふて宜しい、其外に乳母を擇ぶに困難なる事は、乳母其人の性質、乳母の性質の中で最も大切なるは虛を言はないもの、即ち正直なるものを擇ぶのが大切であります。其次には、品行であります、乳母若し不品行の事を爲し、或は酒を飲み横着であれば、無論小兒の爲めに惡いと云ふ事は解り切ッて居ります。併しこれ等は傍らより注意して監督を嚴にして居れば害を豫防するのは左程六ケ敷事でも無いが、最も困難の事は虛を言ふのが何より子供の爲めに害になります。乳母が若し病氣に罹ッた時に、醫師に診察されますと、此乳母は斯う云ふ病氣が有るから其乳を子供に與えては往けないと言はれると、場合に依ては直ぐに止められて仕まひますから、成るべくは醫師に罹らぬやうにして、病氣をも隱蔽します、ソレが爲めに小兒までも重い病氣に罹ッて大變に困難する事がございます。故に乳母を雇ひましたならば、時々醫師に托して乳の撿査をして貰はなければならぬ。モウ一ツ乳母の虛を言ッて困る事は、小兒に何か食べさせるので御座います、自分が何か食べて居る時に小兒が泣き抔しますると、ソレを騙

す爲めに食物を與えます。その爲めに小兒が病氣にありますると、醫者が其病氣の原因を考へて食物を與えたのではないかと問ふと、乳母はきつと知らないと申します。何かやッた覺えはないかと云はれた時に、斯う〳〵云ふものを食べさせましたと言ッて仕舞へば療治がなし易いし、小兒に難義もさせずに濟むので御座いますから、虚を云ふのは誠に惡い事でございます。ソシて世間にもサウ云ふ例は屢々有るので御座います、乳母では有りませぬが、ソレに似た例がございます。先年大學の小兒科に一人の小兒が入院して居りまして、母親さんと祖母さんが看護に附いて居りました、矢張り是れも腸胃加答兒で始めは瘛瘲たりして、余程危篤の容体でございましたが、先づ漸々に快くなッて、殆ど快復に近いた時に突然と乳を吐き、顔色も蒼くなりました、ソレから能く詮議して見まするに、ドウしても原因が解らない、併し必ず祖母さんが何か食べさせたに相違なからうと思ひまして、色々問ひ質しても、何にも遣ッた覺えは無いと申して居る、其時に丁度其小兒の父親が來合せまして、非常に立腹しました。併し何も食べさせなければ、斯う急に惡くなる理由は無いと思ひましたから、下劑を用ゐて大便を撿査しました所が、中より葡萄の種が五ッ六ッ出て參りましたソレを見せました所が、其父親も非常に驚きまして、謝ッて歸りましたが、夥多の來診者の中にもこれに似た例が幾らも有ります。何もやッた覺えは無いと申してもさぐッて見ると、吐き出したる乳の中より蜜柑の出てたり、或は下劑をかけると餡が出て來る抔と云ふ例が澤山に有ります。斯う云ふ事は先づ大抵祖母さんの仕業か、さもなければ乳母、子守の仕業であります。子守は子を負ふて居ッて、少しく倦きますると食物を與えて小兒を騙しソレで自分の勝

手に遊んで居る、ソレ等の原因から子供が病氣になる事が、往々有ります。

ソレ故に乳兒を育てるには、母親さんが自分の乳を飲ませ、自分で護をするのが一番宜しう御座います。若し眞に母親さんの乳が惡くて、乳母を雇はふとするには、必ず此点に注意しなければなりませぬ。私共度々乳母の撿査を致しましたが、何より先きに、虚を言ふか言はないかと云ふ事に大事を置きます、乳母と云ふものは、大抵桂庵から口入をするのですが、桂庵が智慧を附けて虚言を吐かせます。小兒を生んだ後一年も二年も經ッた人は、乳母の給料が廉いもので御座いますから、從て桂庵も手數料を澤山取る事が出來ないので、一年も前に產をしたものをも、三月前に產をしたなど丶言ひ、或は二三日も前から乳を飲ませずに置き充分に張らせて三時間斗り前まで飲ませて居りましたけれども此通り張て居る抔と言ッて見せびらかします。又た肥太りたる小兒を他よりかりてまいりこれが私の生みました小兒で御座りますなど丶途方もなき虚言を申しますし。併しサウ云ふのは醫師が撿査をすれば、直ちに發見する事が出來ますが、唯私共の毎も注意致しますのは、たとへ乳がドノ様に澤山あッても身体が如何に健康でも、虚言を吐くやうなものは往けない、又虚言を吐く位ゐの者は、主人へ奉公して居る間も、自分に病ひが有ッても之をおしかくして居るに相違ない。ソレ故病院抔でもお前の乳は大變に良い、又からだも健康であるが、虚言を吐くから採用する事は出來ないと言ふと、中には、實は桂庵から敎へられましたから、其通り申しました抔と白狀するものもある、サウ云ふ質朴なる田舍漢は桂庵に強迫されたので、可愛想なる事情も有りますから許して雇ひ入れる事もあります。併しドウしても強

情張て居るものは、體格並に乳の成分の如何に拘らず、採用しない事に心懸けて居ります。乳母も今申した様な缺点もなく、身体も丈夫で乳も澤山に出るものを雇ひ入れる事の出來ない時には、營養法、即ち人工營養法、牛乳で小兒を育てる事をしなければならぬ。

牛乳で小兒を育てるのは非常に手數が懸り、余程熱心に小兒を愛する人でなければ、牛乳で小兒を養ふ事は出來ませぬ。西洋の小兒の死亡數と、日本の小兒の死亡數とに、著しき等差の有りまするのは、西洋では牛乳で小兒を育てる事が流行するからであります。牛乳で小兒を育てるは啻に六ヶ敷いのみならず、經濟上よりもコンデンスミルクの方は大變に費用が多くて不經濟であります。何故日本では割合に乳母を雇ッて子供を育てる人よりは、牛乳で育てゝ、費用も余計懸り心配も余計に爲して、殊に手數を懸けて不利益の事をするかと云ふに。前申上げました通り、缺点の無い乳母は容易に得られません。たとへサウ云ふ乳母を得たにもせよ、其乳母の乳に因て小兒が丈夫に育つと、乳母の勢ひが非常に強くなる。殊に母親より乳母の方が年が上であると、中々乳母を制することが六ヶ敷なります。ソレ故寧ろ始めから雇はぬ方が得策だと云つて、乳母を雇はないで、牛乳で育てゝ居る人が私の知ッて居るものにも御座います。兎に角完全した良い乳母は少くッて、母親の乳も與えられぬ已むを得ぬ場合には、人工營養法即ち牛乳で育てなければならぬ必要が今の處では多い。牛乳で養ふは其方法もなか〱込み入ッた事で、其注意も人間の乳で育てる注意よりも、一層綿密にしなければならぬ。併し皆様方は人工營養方法抔の御話しは、是れまでに度々御聽きになッたらうと思ひますし、且つ余り長くなりまするか

ら、今日は申上げませぬ。此小兒の育て方と云ふ題の中には、小兒に湯を遣はせまする事から衣服のこと、住居のことなどをも申上げねばなりませぬ其他にも乳兒養育中には、種々の障害が起る、其時にはドウしたら宜いか、最も大切なのは、乳離れの時即ち乳ばかりで育ッて居ッたものが、通常の食物に移ります時には、別して注意を要します。此時に一歩を過まると、或は育たなくなるやうな危き時でございます。ソレ等の事も皆問題の中に含まれて居るので御座いますが、最早時間が御座いませぬから、今日は申上げませぬ。唯人間の乳を與えます事に就ての極く狹い區域の御話しを致したので御座います。

寄書

◉婦人須知

健康なる産婦の心得

（前號の續）

醫學士　賀古鶴所君

嬰兒乳養の務　嬰兒を養育するには生母の乳汁を以てするより善きはなし斯くすれば嬰兒は速に成長し且つ健康にして腸胃病等に罹ると殆んとなし生母に於ても亦子宮速に歛縮し惡露早く收まり下血及ひ下腹病等を防ぐの効あり故に生母乳養の勞を取れハ自己も亦健康上必ず應分の報酬を得へし然るに從來富貴の徒は動もすれハ乳母を雇ひて養育せしむるを以て滋養其宜に適せず反て小兒をして虛弱ならしめ加ふるに乳母の撰ひ方精密ならざるより種々の病芽を傳移するとあり之を要するに生母の自ら乳養すると否とは直ちに小兒の強弱に關し小兒の強弱は子孫の盛衰に關及するか故に婦人に在つてハ自ら乳養の勞を取るを以て第一の義務と心得べし且つ慈愛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の方よりして云も亦是に優る者なかるへし然るに婦人競美の甚しきより自ら乳養すれは顔色或は衰凋せんとの疑懼を抱く者ありと雖とも是れ畢竟人體生理の學に暗らきより起れる妄想にして實際決して斯ることはなきなり而して僅に其跡あるか如きは是れ全く數回分娩して漸く老境に至れる結果にして決して乳養せしか爲にはあらさるなり

然れとも又生母の自ら乳養するを禁すべき場合あり即ち左の如し

一生母の乳汁乏しき者たとひ乳房肥太なる者と雖も初産には往々乳汁缺乏し再産に至て始めて豊潤となるものなり

二生母虚弱若くは貧血甚しき者

三乳房の發育不完全にして且つ創傷を帶ひ凝痂の附着するもの

四再ひ懐妊せる者

五久しく熱性病を患ふる者殊に窒扶斯蓐熱薔薇疹を患ふる者但し單に一過時の熱性病にして生母健康なるに於ては持續して乳養するも妨けなし

六痙攣症强暴其他重症の神經系諸病に於ては乳汁爲に其性状を變し危險を醸すとあり産婆の古傳に生母の痙攣症は直ちに嬰兒に移傳すと但し其見易きを以て之を知れるのみ

七生母肺勞を帶ふる者は病芽を傳移するの虞あり

八痛風骨質病等を帶べるものは醫師に診斷を請ひ其言に從ふへし其他家業の都合若くは家事繁忙なるか爲に時を定めて嬰兒を乳養し能はさる者は强てなす可らす必す害あり

生母若し月經を通せは已れ健康にして別に小兒の成長を損する憂なきときは尚は持續して乳養し第二回の通經あるを俟て停止すへし又前きに一回も月經を通せすして妊娠する者あり其確徴を現さば直ちに乳

養を禁すへし

又嬰兒に於て哺乳を妨くるは唯其唇舌の成形不具なる者にあり此者には哺乳器を用いて養育すへし

生母の乳汁缺乏し若くは用ゆ可らさるときハ之に代用すへきは先つ乳母の乳汁にして次に山羊乳牛乳なりとす其餘の食品は小兒漸く成長し胃腸強健となるを俟つて用ゆへし

嬰兒の接乳　産後生母一睡の後は既に嬰兒を乳房に接せしむへし　豫め糖水茶等を與ふ可らす先つ飢感を起さしめ而して後ち母乳に接するを良しとす始めて分泌する乳汁は最も嬰兒の健康に適切なる者なり若し尚は乳汁を分泌せさるときは牛乳に温水を和し稀薄して用ゆへし決して糖水を與ふ可らす然るに我俗習として嬰兒には初め先つ糖水蜜薬を與へ又胎毒を解すと唱へマクリ黄連劑及五香湯等數種の藥物を與ふれとも其實効なく却て害あり況んや其胎毒と稱する者は嬰兒の分娩して未た乳を飲まさるに前たち汚便を通するを認めて以て胎中にて汚物を嚥下せし徴となし兒體には尚は汚毒を含むへしとの臆測より生せる者にして是れ亦人體生理の學に暗きよりして致す所なり細に之を論すれは嬰兒にハ汚毒と稱すへき者毫も存するなし若し又假りに汚毒ありとするも右の如き利害二つなから乏しき藥劑を用ふれはとて寸効あるへき理なし故に最初より滋養に適切なる生母の乳汁を用ゆるの優れるに若くなし又初泌の乳を新乳と唱ふるを劇と誤解し先つ童女をして哺はしめ或は數回絞り去るの後始めて嬰兒に與へ又嬰兒には接乳の式と稱へ枝葉繁榮なる近親の婦人にして乳ある者を撰ひ先つ哺乳せしむとあり共に生理に暗らきより來れる弊習とす故に産後初めて生母の乳に接する者は嬰兒にして初めて嬰兒の口に入る者は生母の乳となすへし且つ最初に分泌する乳汁は其質濃

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

厚にして大いに滋養に富み兼て緩和下劑たるの効を存するものゝ如し

嬰兒に哺乳せしむるには母兒共に頭部を高くなして半臥の位置を取り凡そ半時間乳房に接せしむへし而して哺乳後は淸水に潤せる布にて靜かに嬰兒の口内を淸拭し又乳房は哺乳前後に於て別に水に潤せる布を以て淸拭して乾し數重に疊める乾布を以て掩ふへし掩布若し濕潤せは乾けるものと更換し乳房をして常に淸潔且つ乾燥ならしむるを良しとす

生母若し初日に於て乳汁を分泌せさるときは山羊乳若くは牛乳に水を和し以て嬰兒を養育すへし糖水及茴香湯は滋養にあらす而して哺乳器を用いて養ふときと雖 每回必らす先つ嬰兒を哺乳に慣れしむへく且つ乳房の乳路を整へ乳汁の流通を進促せしむる効あり若又嬰兒乳房に接せさるときは吸乳器を乳頭に接して之を試むへし斯して四五日を經ると雖とも乳汁尙ほ通せさるか若くは豊潤ならざるときは乳母を雇ひ若くは牛乳等を用いて養育すへし而生母の乳頭には油を塗り綿花を以て掩ひ置くへし

乳房に於ける注意　前章に於て説ける如く凡そ創傷は汚物附染すれは必す焮衝を發し延いて危險に陥ゐる者なり乳房に於ても亦然り乳房は產後一週日の間は甚た小創を蒙り易きものなり產母產婆は屢々指を以て乳頭を摘み若くは引き上るを以て若し指頭に汚液染着するときは卽ち焮衝を發し化膿すへし故に小創と雖とも注意して速に治せさる可らす又乳汁瀦泄して凝痂を結ひ癒合を妨たくるとあり此場合には淸水若くは石炭酸水を以て創部を洗淨しサリチル綿を以て掩ひ置くへし而して綿を除かんとするときは豫じめ石炭酸水を以て之れを潤はし徐々に除き去るへし然らされは癒合を妨たくるものあり又護謨帽を冠らせしむるも可なり乳房若し焮衝腫脹せは石炭酸

油等を塗り綿を以て掩ひ置き而して醫治を請ふへし

（以下號次）

●浴場行日誌（前號の續）

醫學博士　佐々木政吉君

三時同所を發す是より凡そ三十分を隔つる所に至るベルンハルド氏馬を購入せんとするを以て同行す氏二頭を購ふ各五百「グルデン」なり茲所にて珈琲を飲み某伯廐長と談話す廐長曰くウンガルンは良馬を産す澳國の軍馬多くは玆より來るとベ氏購ふ所の馬又ウンガルン産なり又曰く馬の生命は平均十五年なりと小憩即ち此新に購入したる馬を驅て歸途に就く途中ベーメン固有の廊下樣の橋及び小學校を見る此邊の民屋概ね木造にして矮陋見るに堪へす歸途再ひギースユーブルを過ぐ管理長余に贈るに納入ギースユブルの記三冊を以てす書中本日見たる所の有樣を寫せるものあるを以て大に喜べり時に日將に西山に舂かんとすギースユーブルを發せしは六時十五分頃なりき馬を疾驅し森道に詣りし時は日既に暮れ新月鎌の如しベ氏常に馬の体格相貌を視察し一馬の前脚直立するとき少しく屈曲するを見て大に心を煩するもの丶如し七時半「カル丶スバット」に歸る直ちに晩餐を喫し日誌を認む

本日は終日天氣清朗にして風塵なく身心爽然なり此近傍山嶺水涘の別なく野林田圃耕作を盡し往々山腹牛馬を用ゐて鋤耕するを見たり地味は之を北獨逸に比すれば遙かに豐腴なり士民禮節に富み帽を取りて外人に挨拶す亦以て其風俗の淳樸風なるを見るべし士民の多數は舊教を奉ず十一時半寢に就く

四月一日　天氣清朗なり七時半寢を出で珈琲を飲み一小童を從へ嚮導となす少年名をアルフレッドリヒテルと稱す「ホテル」を出で左行すると三四十歩「ド

ライフアルチヒ」紀念碑を見更に左折して登ること少許シロスブルンに至り鑛泉を試む敢て他泉と大差なし再び左折してノイウエヒを通過しヒルシスブルンクに登る巨嶽突兀として屹立し頂上に金屬製の鹿を載せたり傳へ言ふ昔帝カルヽ四世玆の近傍に野獵し玉ひしとき鹿は此高所より落ちたれば扈從の臣僚之を追求して發見せしとき鹿は熱泉の爲めに皮肉已に爛焼せられたりと是れより泉初めて世に著はると是れ口碑なれども其事實の確否は知るべからず何となれば此地方には鹿の棲息すること無ければなり此高岡にて市街を瞰下するに烟突庖厨の煙交々上昇し大に空氣に害するを嘆せり之より畧五十歩を隔つる所のペーテルが岡に登る在昔ペーテル太帝此地に浴せらるヽこと三四にして當時大帝裸馬に鞭ち此高陵に登られしと後人依て此岡を稱してペーテルと名け後大帝の像を建て其紀念と爲す佇立遠近を望み全市兩眸の下に在り亦此地の一勝たり立像の下臺石に刻するに詩を以てす左の如し(中略)

余以爲くカルヽスバット今日の隆盛を致すもの主として其効驗あるに由ると雖とも一は斯の如く有名なる帝王の訪はれたることあるを以て其名を遠近に轟傳すること早きものあるべし

ペーテル岡を下りエーゲルハウスと稱する休憩所に至り麥酒を飲みパルク街を降り「ホテル」に歸る途次一患者に遭ふ肝臓病に罹る親しく其鑛泉を用ふるの經驗を聞知せり

岡を昇り或は降る松樹森々として繁茂し空氣清涼にして頗る爽快なり風景は素より偉觀と稱するを得ずと云へども岡陵起伏して眺望に富み人の神身を爽かにす

正午頃ベ氏と共に市長を訪ふ市長贈るに鑛泉誌及び一劵を以てす劵は只此浴場を訪ふの醫師にのみ與ふ

るものにして無料にて諸種（モールバットを除き）の浴を試むるを得るなり余深く之を謝す

歸途舊教れ寺院を一覽し「ホテル」に歸り晝餐を喫し後二時再び馬車を驅てペ氏と共に此地の浴醫ドクトルパウルカテルリー氏を訪ふ氏此地に在ること已に十三年頗る經驗に富む氏余を迎ふる慇懃懇切なり我に送るに其自著「カルヽス」鑛泉誌一冊及泉の蜜尿病に及ぼす効を書せるもの一冊を以てす諸療客の事に及ぶ氏曰く當泉の主として効を奏するは肝臟肥大、蜜尿病、腎石、痛風、膀胱加答兒腸胃諸病にあり四十年前には一日間四十杯を飲むものありしか今日は多きも七杯を超へず人若し大量を飲むときは一日四五回の便通あり泉を用ふるには食前凡そ一時間を隔つ食物の禁忌は酸味を帶ぶるもの脂肪に富むものを避へく肺癆瘰癧等の患者など當泉の治する所にあらず氏又語を繼ぎて曰く「カルヽス」泉の繁榮を來せる實に驚くべし余十三年前此地に來るや當時浴醫の數卅二名なりしが今日は六十五名の多きに及べりミユールブルン近傍に[illegible]家屋なかりき今や大厦櫛比屹立すと其所藏の古書數卷を出し示すに「カルヽス」浴場の百年又は二百年前或は五十年前に在り一寒村たりしことを語り其圖を示す余問て曰く浴場の繁盛に趣く誠に喜ふべしといへとも同時に人家の稠密を致し日に家屋の增築あるに至りては其極只に空氣の不良を來すのみならず山間の風光を失ふに至らんとす貴意如何となす氏答て曰く誠に貴說の如し故に「カルヽス市」は目下此制限を設けたり即ち一屋を建設するに當り散步場又は公園等の風景を害することあると認むれば市廳は之を許可せす余又更に問て曰く「カルヽス」塲の由來聞くを得べきか氏曰く「カルヽス」塲は一千七百七十二年ドクトルベッヒエル氏初めて「スプルーデル」泉を泉の固有する蒸氣の力によりて

乾燥せしめ其殘留したる塩を採取するを以て嚆矢とす當時住民以爲く若し此塩を他地に輸出せは礦泉療客の此地に來る者の數を減ずべしと忘想し終に氏を脅かすに死を以てするに至れり後年獨逸帝の勅許を得て他方に輸出したるにも關はらず療客年を逐ふて増し今日は此塩の輸出額年々十八万「グルデン」に及べり此利益は盡く市民の共有財産となる今に至り浴市の人民ドクトルベッヒエル氏の功績を追慕して止ます「スプルーデル」泉の前を名くるにドクトルベッヒエル塲と稱す夫れ達人は先見の明あり多數人民の意志なるもの必しも正鵠を得べしと斷言するを得ざるなり

氏又曰くべ氏が當時此鹽を分折するや理化學未だ今日の如く進歩せず氏の「カル丶ス」泉誌を讀むに炭酸を以て有彈性の一体となし酸素を名くるに定空氣の稱を以てせり余又問ふて曰く泉孔は時々穿淨を要するか氏曰く三ケ月毎に鉄棒を以て穿淨す然らずんば泉の迸騰を妨ぐることあり之にて氏が家を辭せんとす氏曰く余少閑あり乞ふ「スプルーデル」塩製造所に同行せんと余と共に室を出づ時に二患者の氏の診を待つものありければ厚く禮辭を述べて氏と別れたり直ちに「スプルーデル」泉塩製造塲に至る即ち是れ有名なる「カル丶ス」泉塩の製出せらるゝ所なり塲長の案内を以て泉を煮沸する大なる釜を見殘留したる塩類の結晶を一覽し次で乾燥室に至る皆蒸氣を以てす塲長贈るに鹽分折表及「カル丶ス」泉塩一包を以てす目下製造塲の休時に際するを以て塩に通するに炭酸を以てし重炭酸曹達と爲す所を見る能はざりき要するに装置は簡單なるものなり最后に分折室を見る即ち厚く禮辭を述べて別れたり

塲を出で更に馬車を驅て「カル丶スバット」陶器製造所に至る山道を過る凡三十分にしてビルケンハムメ

ル村に到る時正に六時なり工塲已に閉づ即ち小憩して珈琲を飲み別路歸途に就く道すがら諸所に珈琲店割烹店の林間に散在せるを見る蓋し此邊總て旅客の散歩塲なればなりテーブル中央に流れ兩岸森林あり夏時の避暑に適すべし途新敎及希臘敎の寺院を過ぎり「ホテル」に歸り晩餐を終へたるは午後八時頃なりき

今夜ベ氏と共に「クウールハウス」の「コンツェルト」に至り二三曲の樂を聽けり塲中黄胆に罹り殆んど黑人の如き色をなせる療客を見る樂終りて後ベ氏及市廳書記、小學敎師等と麥酒を會飮し十二時歸宿す

四月二日　本日曇天なり午後八時當地を出發せんと欲するを以て先づ旅裝を整へ十一時頃再びアルフヒツドを具し先づシユール巷に至り二三の土産を購ひ次て「スプルーデル」浴塲に至る浴の結構他所と異なることなし其一等浴に屬するものは中に天鵞紙製の安息椅子を設く是より「クウルハウス」に至り先づ通常浴を見る蒸氣浴は昨日より始めたるを以て親しく實視するを得たり浴者の爲めに衣服を著し又は脱するの室は一人して使用することを得其室數十あり此室を出てゝ隣室に入れは針浴の裝置あり上下左右より或は驟雨の如く或は瀧瀑の如く或は穩雨の如く自由に之を用ふることを得此室に接して一室あり蒸氣を以て滿たす之れ即ち蒸氣浴なり内に一人の療客其体を烝ましめ居るを見たり一階を下り「モールバツト」を見る裝置通常と異ならざれども「モール」を混攪し泉を入れ之を煮沸するに蒸氣を通ずる所を見る室の數三十を有す此所に凡そ四坪程の石造浴塲ありて「スプルーデル」泉を引く是れ貧民の混浴に供するものにして一人五「クロイツ」なりとなふ更に一階を登り洗濯塲に至る洗滌、熨滑、乾燥等の裝置皆備はり、汽器を以て之を運轉す之より電氣燈の原機を見終に

仝「クールハウス」百般の原動力を起す蒸氣機關室に至る仝馬力四十八なりと又以て「カルヽス」泉浴場の盛なるを察知すべし

（以下次號）

衛生叢談

◉斷食試驗の結了

病氣により或は病人の望みによりて斷食することあるも餓死に至らざるは病の爲か或は如何なる理由あるかは醫學上の一問題にして之を研究するには健康体の人に就て實地試驗せさるべからず斷食の試驗は先年獨逸伯林に於て一度は十一日間一度は六日間佛國にては三十日間之を行ひたりしが我國にても宗教信者の時に或は斷食するものあれども未た十分の研究を爲したる事なし然るに今回始めて其志願者出でたりそは伊豆國韮山に住する鈴木範術氏なり氏の行爲に就て同地衛生會の議に上り遂に醫科大學長大澤氏に紹介するに至りたり氏は隈川博士及生徒の篤志者と共に其實驗に取掛らんとせられしが少しく不快の氣味あるを以て實弟安井次郎氏（年齡三十三）は自ら其任に當ことを誓ひたるによて一週間の試驗り兩博士も大に喜び先づ七月廿二日より仝廿八日まを行ひたり其一週間の食料としてはたヾ毎日蕎麥粉百グラム凡廿六匁餘と水とを以てしたるが七日目に至るも身体に異ることなくして元氣も至りてよく体の重さは僅に四百目を減し十一貫七百目となりたるまで也夫より一度平常の食事に復せしめ八月七日午前六時より愈

斷食の本試驗

に取掛りたり先つ体量を撿せしに當時十二貫四百目なりしが二週間目には一貫六百十匁を減じたり試驗中の經過を記さんに仝氏は毎朝早く起き井水を以て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

身体を拭ふを例とせり夫より体操をなし又は書見囲碁等をなし少しも疲れたる氣色なく十二日目の如きは退屈の餘り看護人と共に春木座を見物し猶廿日の夜は寄席に趣き落語を聞きて大に喜べりといふ歸路の歩行も頗る正しく却て看護人に先つこともありしと云ふ併四日目よりは顔に皺を顯し遂に目窪み頰落ちたれども之に反して力量は更に變りなしといふ夜は大抵三十分計眠るのみにして其間に夢見たる事は僅に一度にして無異に十四日の斷食を經過したり依て廿一日の朝より食物を與ふる事となりたるが氏は自ら平生好む所の蕎麥粉及び蕎麥を食せんと云ひ出てたるにより其意に任せ當日は蕎麥掻と盛り一つとを食ひ翌日は蒸籠蕎麥二ッ其他氷砂糖湯等を飲み次第に舊に復し此頃は平日と變りなきよし仝氏の語る所によれば食事を始めたる後は毎夜睡眠し得らるれとも夢見ること多しといへり何れ調査の結了を竢ちて詳報を知るに至るべし

●喫氷に關する獨逸政府の諭達

此頃同政府は漫りに氷を喫する事の人身に害あることありとて一の布達を發したるが時節柄參考に資す

氷を喫する時は大に腸胃を害するものあれは平生胃の弱きものは勿論健康なる人と雖も大に注意すへき事なり之れ其原料たる水の中にバクテリヤを含むもの少からす若し不良の水より成り立ちたる氷を喫する時は忽ち非常の大患を發する事あり是迄の經驗に由るに夏時に於ける病の中其十中の八九は喫氷に由らさるものなしされば各自喫氷の大害あることを悟ると共に其渇を慰するの道を他に轉すべし云々

又右の達と共に同國衛生局は顯微鏡の試驗成蹟を發表して衆人の注意を惹きしといふ

●溺死者救濟新法

此頃は炎暑焮くか如く水泳の盛なる時節なれば溺者救濟の法を心得置くも必要の事なるべし近頃佛國の博士ゼー、ヴイ、ラボルド氏の發見せるものなりといふ新法を見るに其法たる極めて簡易にして何人にても之を行ふ事を得へしそれは先つ水に溺れたるものを横に臥さしめ口を開きて其舌の先きを握り呼吸の調子の如く交も之を引くなり斯くする時には暫らくにして深きためいき若くは吐き氣を催し來り遂に呼吸を吹き返すに至ると云ふ之れは至て簡單なるにも係らず其效實に著るしといふラボルド博士の如きは屢此法を施し又は畜類にも試みたるに其都度好結果を奏したりといふ

◉安足袋の危險

安足袋の原料に就ては實に驚き入るの外なき早桶をこなして杉箸となし白無垢を染めて造花をこしらへるの類は兼て聞く所なるが數年前本所の片隅にて製したる足袋の如きは重もに囚徒の古着の染め返しにて之れさへも穢はしとなしたるに近頃に至りては之は中々の上等品なりとて下等社會に於ては之を衣服に供するよし又醬油にて煮染たる如きいとむさくろしき古手拭の如きも亦足袋の原料に用ふれとも之れとても拂底なるにより淺草の某所にては所々の私立病院に至りて患者の腫れ物又は切瘡等を包みたる繃帶の古を買ひ取り之を洗ひ晒して紺足袋となすといふされども此くらゐの事にては中々引足らねは諸所の田舍より不潔物の材料を買入れて少女を傭ひ其仕分けを爲さしむるといふ聞くもきたなく且危險なる事なり

◉北里博士の肺患識別劑

醫學博士コッホ氏の直傳なる北里博士の肺病施術は其施術前に於て能く病況等を深く注意せらるゝことなるが中にも肺病初期の診察は綿密ならさるべか

らずと如何となれは該病初期に於ては果して肺病なるや否や甚た識別に困む其例証を擧れは現に仝氏の傳染病研究所設立てのかた他より送られし患者の内には仝患ならざりし者もありしと去は同博士は深くこゝに着眼し此頃一の肺病識別劑を發見せる由同藥にて皮下注射をなせば眞の仝病ならさる如く見ゆる患者も直ちに其兆を現はすといふ此藥愈實地に行はれなば其診斷を誤る事絶てなかるべし右は專ら目下實驗中にて充分研究の上世に公にするとか聞けり

◉喫烟の新法

烟草には元來「ニコチ子」なる成分ありて人の害を爲すものなるか英國の醫師ガアレット氏の發明したる喫烟法によれば決して身体に害を及ぼさすと云ふ扨て其の法は綿の小許を焦沒色酸の中に濕しこれを喫するときは其の毒をよき程に薄くならしむるを以て却つて肝臓の痛み頭痛および舌の爛れを治すべしとかくするも其の烟草の香ひは少しも變する事なしといふ

◉人の死する原因

人の死する原因明なれは人の死せさる事も又知るをうへきか曰く然りとはいへ申さす候扨此問題は中々に六づかしき難問なれとも余は之に對し或る西哲の云へるか如く「死すへき時に死す」といへバ之は決して間違のなき次第なりされとも何故に人は死するか嗟呼哀しやと一歩〳〵に考ふれは我れ自ら我を疑はさるを得ずして此頃近き西字新聞を見るに人の死するは消費と營養との齊しく其度を失ふ時に於て起るの結果なり老て死するは常に之に原因するなり其老ゆるといへる事は年數の經過と共に礦物質の凝固を來し諸部の骨質等益固くなり營養を妨げ燈火の恰も油盡きて果ては消え果ると同じく人間の死する所以にして之そ死といふもの！

されば此礦物質を体外に追ひ出す事を得れば生命は萬代不易不老不死にして鶴は千年龜は萬年の壽を得らるべし之ぞ長生不死の秘訣ありあな賢〳〵

●精神病と不毛との關係

大坂府堀川監獄醫坂本元良氏は去頃より在監囚徒に就き精神病ある者の身體を調へたるに白痴者と認むるものは腋下及陰部に毛の生じ居らざることを發見したり因りて特に此点に意を留めしが右着手當日より去五月六日まで精神病者と鑑定せし囚徒十九名中調査の結果左の如し

腋毛全缺	男八名	女二名	計十名
腋毛陰毛共缺	同一名	同二名	同三名
腋毛陰毛共存	同六名	同なし	同六名

猶阪本氏は參考の爲大阪癲狂院の精神病者の病症記事を取調へしに昨年十一月より本年四月まで入院患者四十七名、其中の割合左の如し

腋毛全缺	男十五名	女十一名	計二十六名
腋毛陰毛共缺	同なし	同一名	同一名
腋毛陰毛共存	同十五名	同五名	同二十名

又試みに去六月一日より同十日まで在監の囚徒一般に就きて腋陰兩毛の有無を調査せしに男囚二千八百九十四名女囚三百八十名にして其結果左の如し

毛腋全缺	男二百八十四名	女九十一名	計三百七十五名
腋毛陰毛共缺	同二名	同十六名	同十八名
腋毛陰毛共缺	同二千六百〇八名	同二百七十三名	二千八百八十一名

要するに不毛の比例は十名に付男一名、女四名弱にて女の方は不毛のもの割合に多しと云へり

右の如く精神の變調者中には腋毛及び陰毛のなきもの頗る多く就中白痴者に甚だしきを見る而して腋毛なきも陰毛あるものあれど陰毛なきものには絶えて腋毛なし但し精神病者に腋毛及び陰毛あるもの〻少なきは果して如何なる理由あるかは未だ審かなら

ず專ら研究中なりと云へり

●婦人の髪

暑氣炎々の折柄は勿論毎月一回は必らず髪の毛を洗ふべし強きあく又は「ソーダ」の類は有害なれば柔かき石鹸と微温湯を以てするか又は毛の爲にもなり且よく落るは御承知の通り「ウドン粉」或は「ソバ粉」とす之等は最も健康によろしとす日本の女の髪は多量の油を付くるが故に自然其洗ひ方を怠り安ければ實に不健康の極にぞある久しく洗はざる時は頭部の蒸發を防ぎ爲めに頭痛に惱まされ害の何たるを知らず「ドウも頭が重くていけません！頭痛は私くしの持病である！恬として怪まざるが如きは不攝生を人に顯はすものなり(但し腦病は別もの)年未だ若きに髪も早く拔け落ち時ならぬ秋風落日のすがたとなるは亦此等の原因も關かりて力あるものなれば細事とて輕る〳〵見なすべからざるは髪の毛の洗滌にこそ

●虎列刺病の植付

英國醫術雜誌は曰くハッフキン氏は先き頃英國を去り印度に行きしがカルカッタに暫時滯留の後アグラにてハンキン氏の所に行きたり此地は盛んにコレラ病種を植ゆるの地なり英國の官吏及び英人は二百人以上コレラ病種を請ひ出でたり、此中ハッフキン氏は十五人以上に病種し翌日土人若干名亦種病を申出で到着後第七日には英人五十人土人若干名に種病し此中婦人若干名ありたり此等の種病者は何れも全治するが故に從來土人が懷きし疑惑も追々解くるととあれり云々とあり此説にして眞ならばコレラの種植は種痘と同樣に行はるゝとあるべし

●蛋白と淡白

或富家の愛兒氣鬱の病に罹り次第に身体疲せ衰へければ父母の心痛一方ならず早速醫の診察を乞ひしに醫は一診して曰くこは別段の事もなしたゞ貧血のた

め衰弱せるなれば蛋白質を御上なされ！さすれば日増に元氣も増さんといひしを細君の早や呑込み！其の後は日々人參牛蒡の淡白ばかり日増に培して衰弱！ハテナ……細君且患ひ且怪み再び醫を招きて仔細を尋ぬ醫恐縮して曰はく私の申上げたる蛋白は牛肉鷄卵等のことにて蛋白と淡白の間違ありとわかりハテハ大笑をなせしといふ漢語も時により大間違ひあるものにて或る人目を病む醫來りて診一診して曰はく瞳孔を御見せなさい或人惑ひ銅壺を瞳孔なさる

◉産婆試驗

同試驗は去る二十日より來る九月十三日までに願書を出すへき成規にて毎年今頃は出願者續々あるも至て本年は少く未た僅かに五六名程ありといふ

◉義眼村

西洋にては入れ眼の製造次第に發達し眞物と髣髴たる品を造るに至りしが獨逸のある村は全村民擧て義眼の製造を事とし其輸出盛なりといふ故に義眼村の名ありと府下本町の（いわしや）にも亦入眼あり

◉雜報一束

◉腸窒扶斯病の流行　昨今府下に腸窒扶斯病追々流行し神田區の如きは最も熾んなる由氣候不順の折柄別して注意ありたし

◉本年の脚氣　本年の脚氣は惡症にして胸部に異狀を來すといふ

◉本年の暑氣　東京は去る十六十九年の方却て强かりしも岐阜熊本の如きは百度前を上下したりといふ

◉亞刺比亞の虎列刺　同地は巡禮多く同病に罹り二週間の死亡者は五千三百余人にして尚一日平均三百七十人余に及ぶといふ

◉接吻禁止の建白　米國オハヨヲ州の大醫某は接吻

の有害を論じ同國議院に向つて接吻禁止の建白をなしたりといふ

◉鷄卵の競食　オハヨウ州の「デトイン」に於て鷄卵會食の競爭をなせり五人の競爭者の中三人は白人二人は黒人五人共腹を抱へて倒れしが九分三十秒間に廿一を食ひ盡したるものが其日の勝なりしといふ何の爲かや

◉恙虫の生捕　越後の名物恙虫も北里博士の調査により動物性黴菌なることを發見し此程四百本の瓶よ入れ歸京せられしといふ

◉穴倉で三人死す　府下北多摩郡田無町農某は芋を入れ置く土藏へ這入りたるが遂に悴の音吉より隣家の某も入りたるまゝ出て來ぬゆゑ不思議に思ひしが全く窒息の爲に皆死亡したりといふ

◉狂犬病　此頃横濱に狂犬病發したるを以て野犬を捕へ去る十五日より十七日迄に撲殺したるもの十五頭ありしといふ

◉東京市内小兒科醫の栞

醫科大學敎授　醫學博士弘田長君
住所麴町區飯田町四丁目十八番地
同氏は小兒科學の敎授なれば診察を受られ度方は醫科大學第一醫院小兒科病室へ至る可し外來は月水金の午前なり、又特に御依賴になれば往診もせらるゝとか聞きぬ

文部省學校衛生事項取調囑託　醫學士三島通良君
住所京橋區南鍋町一丁目七番地
同氏は小兒科專修の爲大學院に入學せられるか余暇には小兒の診察、種痘より其敎養法及學校生徒の衛生法に就き御相談に應ずと云ふ診察は毎日午前の内回診は午後にせらるゝとか聞きぬ

(以下次號)

廣告

●婦人衛生會總會

八月講演は例により休會致し候本月第一土曜日は開會の期定に候へども殘暑未だ退かず會員方の內には避暑等にて御不在も圖りがたきを以て須らく冷氣を待ち開會致すべく會日は追而御通知可申上候間左樣御承知被下度候

今回は總會に相當り候間可成御誘合せ御出席相願度候當日衣服は可成粗服御着用願上候左なき時は衛生普及の本旨に戻るのみならず中には衣服を氣に成さる御方も有之候由に付右申添候

○大日本婦人衛生會に於ける八月中の入退轉居は左の如し

入會者

○會員淺井梅子の紹介により
芝區琴平町二番地　通常會員　關口環子
○幹事中野悅子の紹介により
新潟縣中蒲原郡大淵村大字西野　贊成員　伊藤房吉君
芝區三田二丁目一番地　通常會員　梅田くわ子

轉居

麴町區富士見町五丁目九番地へ　佃うめ子
本郷曙町七番地字池の端へ　宮岡けい子
小石川關口臺町七十五番地へ　菊地いち子
小石川指ヶ谷町八十七番地へ　岩永さと子
本郷曙町十六番地へ　吳みな子
本所相生町四丁目へ　丸橋光子
麻布鳥居町九番地へ　實吉れん子
芝巴町卅一番地へ　伊東ゆう子
芝三田一丁目へ　渡邊みつ子
下二番町七十二番地へ　坪井國子

退會者

宮田けい子

大日本婦人衛生會

◉流行病

◉東京府下の死亡年報　昨年中府下十五區六郡の死亡者は合計四萬二十二人にして其の重なる源因を擧ぐれば左の如し

痘瘡	一、六四六人	脚氣	一、〇九七人
胃加答兒	二、五九一	發育不全	一、四五七
腸加答兒	一、三三六	老衰	一、四三六
慢性胃腸炎	一、一二五	肺癆	三、九〇六
腦膜炎	四、五三八	肺炎	二、二五六
卒中	二、一二一	氣管支炎	一、五六九
小兒急癇	一、二一六		

又た其の源因を大別すれば左の如し

傳染病	五、二九六	發育及營養的病	四、三八四
皮膚及筋病	一九四	骨及關節病	一五
血行器病	一、〇四四	神經系病	九、六八一
呼吸器病	九、六七六	消化器病	七、九〇五
泌尿及生殖器	九八一	外襲性變死	六一六
中毒	四四	病症未詳	五〇

◉各地の赤痢

目下九州地方に於ける赤痢病は追々蔓延の摸樣ありて内務省衛生局にては已に視察員を派遣し各地に於て豫防法等協議中の由なるが其筋へ達したる最近の報告は左の如くなりと

府縣名	初發より總患者	同死亡數
大分縣	千九百九十三人	四百八人
熊本縣	三千八百二十八人	六百四十一人
山口縣	百二十三人	二十三人
大坂府	五百五十二人	百五十二人

外に堀川監獄に四人十五名内死亡四名あり

愛媛縣	千五百九人	二百五十人
佐賀縣	千九百七十五人	三百八十九人
宮崎縣	千百六十九人	百六十六人
福岡縣	千二百九十人	二百六十人

◉赤痢の豫防

近頃は諸所に赤痢流行するに至りたるが其豫防としては傳染病の通則ある攝生、清潔、消毒、隔離の四法にあれど殊に生物を食し氷水及果物等を多食するは頗る危險あり又赤痢の兆候あるに當り賣藥を以て下痢を止むるか如きは尤も戒むへきことありと云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

活版印刷廣告

弊店は江湖の御愛顧を蒙り特に本雜誌の印刷御用を被仰付次第に繁盛に赴き候段難有奉拜謝候尚精々勉勵仕候間陸續御用被仰付度伏而奉願上候弊店の

印刷 は鮮明を旨とし紙質インキ等を吟味仕粗漏なき樣念入出來仕候

印刷料 は勉めて低價を旨とし御約束期日を違へす精々迅速仕上可申

活字 は清明各種の字体略々備り居候間諸官衙の御用は勿論諸雜誌。廣告。引札等細大となく御引受申候特に

御名刺 は御交際の要具と奉存候間鮮明美麗を以て貴顯紳士貴婦人令孃の御好に適ひ候樣調製仕るへく候

御注文 の節ははがきにて御申越被下候へは直ちに見本持參にて御用御伺ひ申候其節はがき返上申上候何卒陸續御注文の程伏而奉懇願候

大日本婦人衛生雜誌 印刷所 神田旅籠町二丁目 廣業館

明治廿六年八月卅日印刷
明治廿六年九月一日發行

東京下谷區練塀町四十三番地 發行所 大日本私立婦人衛生會
東京牛込區矢來町三番地 編輯兼發行者 田中德三郎
仝 神田區小柳町十三番地 印刷者 小高良造
仝 神田旅籠町貳丁目拾一番地 印刷所 廣業館

明治二十六年四月四日遞信省認可第一金曜日發行 （定價金十錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN